

大東文化大学 教員養成の目標

① 教職課程センターの教員養成の目標

教職課程センターは、「高い専門性を持ち“明日に向かって成長し続ける教育職員”を育てること」を目標とする。すなわち、多様化する社会に関して、高い情報リテラシーを駆使しながら深くかつ多面的に思考し、変わりゆく状況に応じた的確な判断を下し、その結果を正確な表現で他者に伝達することができる教員、の養成をめざしている。この目標を達成するために、専門教科に対する関心を高め、担当教科の専門性を養い、教科の指導法や教職に関する理解を深めることを重視し、カリキュラムを編成している。

② 教員養成と本学の歩み

本学は、1923年に創立され、その建学の精神は、「東西文化の融合」である。東洋と西洋のそれぞれの文化を学びその個性、特色を摂取しつつ新たなる文化の創造を追及して行くことを教育研究の根幹に据えて、爾来86年の星霜をへてきた。その中で、戦前より漢学に秀でた教員を多く輩出してきた。今日、本学は漢学にとどまらず、8学部19学科の文科系総合大学として発展してきている。その教職課程設置の目的理念は、以下のものである。

即ち、「それぞれが専攻する学問分野において、広い教養と深い学問的素養を獲得し、豊かな人間性と個性をもち、さらに協調性を兼ね具えた教師を養成すること」を目的としている。教員は児童生徒の人間形成に深く関わる職業であり、歴史的、社会的責任が大きい仕事でもある。それ故に、教員を目指す学生には、教職への明確な目的意識をもち、教育的情熱と重責を担う自覚を持つように指導している。さらに、人間としての豊かな教養を身につけ、教職および教科に関する広くて深い専門的知見を有し、実践的指導力を備えられるように、不断の努力を怠らないことを喚起している。

本学の建学の精神は、歴史の流れに沿って、その解釈並びに目指す方向性が少しずつ変化してきており、現在は、「東西文化の融合」については、「多文化共生を目指す新しい価値の不断の創造」と読み変えている。このことは、多くの固有の文化を、衝突させるのではなく、共に共存し、お互いを理解し、尊敬し合う事を目指すことを意味する。こういった姿勢は、グローバル化している社会の中で、ますます重要な考え方になってきていると思われる。

教員養成に対する理念、設置の趣旨等(学部)

①教員養成に対する理念・構想

本学では、従来からの漢学振興の精神を受け継いで、現在では、中学・高校の国語、書道、中国語の教員を輩出している。さらに、「多文化共生」の精神にのっとり、中学・高校の英語、中学社会、高校地理歴史、高校公民の教員も送り出している。さらに、保育士、小学校教員、幼稚園教員、高校商業の教員、保健体育の教員養成をおこなっており、近年の社会の変化にともなって、急速にグローバル化している教育現場に対応すべく、国際的な広い視野をもち、異文化を理解し、柔軟な対応ができるような教員の養成を目指している。

②組織的な取り組みを含めた教職指導体制

教職課程の質の向上や学生に対する責任ある教職指導のために、中学校・高等学校の教員養成については、教職課程センターが全学的な責任を持っている。同センター管理委員会を中心として、カリキュラムの編成、科目担当者の調整、教育実習の実施など、中・高教職課程の運営にあたっている。

さらに管理委員会の下に教職課程を持つ全ての学科の委員から構成される「全学教職課程委員会」を設置し、学部学科と緊密に連携を取っている。保育士・幼稚園・小学校の教員養成については、教育学科の中に独自の教職課程委員会が設置され、教職課程センター、全学教職課程委員会と連携しながら、教員養成を行っている。

また教職課程センターの専任教員、各学科から選出された兼任教員および教職課程センター専門指導員によって「教職セミナー」を開講し、教員採用試験に向けた具体的で実践的な指導体制を整えている。

③教職課程の運営における都道府県及び市区町村教育委員会との連携・協力に関する取り組み

教職課程の運営を実のあるものにするために、地域連携を積極的に行っている。近年では、埼玉県教育委員会「教員養成セミナー」と連携し、教員志望者(免許取得予定者)を毎年数名推挙している。それらの学生のほとんどが卒業と同時に教員として採用されている。

④地域社会等への貢献に関する取り組み

教職課程の運営に連動させ、本学近隣の東松山市、板橋区や埼玉県などの各学校において、授業(学習支援)や学校行事への協力、アシスタント・ティーチャーの派遣など、継続的に地域貢献に取り組んでいる。

また教職課程センター主催で地域滞在型の「特別インターンシップ」を実施し、教員志望者の中から、沖縄県名護市の小中学校でインターンシップを行っている。他にも教職課程センター主催で「教職コロキウム」など、卒業生や現職教員との交流を促進し、教員として実践力を高め、教養を深めるイベントも開催している。

⑤質向上に関する取り組み

教職科目においては、主体的な学びを促進するためのアクティブ・ラーニングを取り入れた教育方法を採用している。また実践力向上のために地域に学生を派遣する「特別インターンシップ」や、時代のニーズに合わせた「大学独自科目」の選択授業など、教員を目指す学生を対象として様々な先進的な授業も設定している。同時に、学生の実態や学習内容について教員および指導員間で話し合う機会を設け、よりよいカリキュラム再構築のための議論を行うなど、常時、教育内容の質向上を図っている。

質を高める教育研究活動としては、現在の日本および世界の子どもたちを取り巻く教育環境その他についての理解を深めるため、教職に関するコロキウム、シンポジウム、ラウンドテーブルなどを実施し、学生へのフィードバックを積極的に行っている。また教育関連の理論および実践に関する広範で国際的な研究に取り組み、その成果の発表の場として「教職課程センター紀要」を毎年発行し、それに基づく意見交換を活発に行っている。

教員養成に対する理念、設置の趣旨等(大学院)

①教員養成に対する理念・構想

本学は、戦前の「大東文化学院」時代より、漢文、国語、書道を中心に、多くの中等教育教員を輩出してきた。その伝統をふまえて、本大学院では、教職に関する深い理解と教科に関する確かな専門力量を併せ持った初等教育および中等教育教員を養成すべく、全学で取り組んでいる。各研究科各専攻においては、学部における教職課程の基盤をふまえ、大学院博士前期課程・修士課程修了レベルの高度で幅広い学問的知見を身につけ、かつ豊かな人間性を兼ね備えた実践的指導力を有する教員を育成するということを目的としている。加えて、本学の理念に基づいた、グローバル化する現代社会に対応できるような教員養成を目指している。

②教職課程の設置趣旨

これまで本学では各種の教職課程を設置し、多くの教員を養成・輩出してきた。各学部学科において、中学校・高等学校の国語、英語、保健体育、商業、中国語、高等学校の書道などの教員を養成している。大学院の文学研究科、外国語学研究科、経済学研究科、スポーツ・健康科学研究科においても、各学部の教職課程を基盤とし、大学院博士前期課程・修士課程修了レベルの教職に関する十分な知識・技能を授けるとともに、教科に関する高い専門的知識を習得すべく取り組んでいる。また時代の要請に応え、即戦力たりうる人材の育成と専修免許状の取得を重視して全学体制で取り組んでいる。

③組織的な取り組みを含めた教職指導体制

教職課程の質の向上や学生に対する責任ある教職指導のために、中学校・高等学校の教員養成については、教職課程センターが全学的な責任を持っている。同センター管理委員会を中心として、カリキュラムの編成、科目担当者の調整、教育実習の実施など、中・高教職課程の運営にあたっている。

さらに管理委員会の下に教職課程を持つ全ての学科の委員から構成される「全学教職課程委員会」を設置し、学部学科と緊密に連携を取っている。保育士・幼稚園・小学校の教員養成については、教育学科の中に独自の教職課程委員会が設置され、教職課程センター、全学教職課程委員会と連携しながら、教員養成を行っている。

また教職課程センターの専任教員、各学科から選出された兼任教員および教職課程センター専門指導員によって「教職セミナー」を開講し、教員採用試験に向けた具体的で実践的な指導体制を整えている。

④教職課程の運営における都道府県及び市区町村教育委員会との連携・協力に関する取り組み

教職課程の運営を実のあるものにするために、地域連携を積極的に行っている。近年では、埼玉県教育委員会「教員養成セミナー」と連携し、教員志望者（免許取得予定者）を毎年数名推挙している。それらの学生のほとんどが卒業と同時に教員として採用されている。

⑤地域社会等への貢献に関する取り組み

近隣の板橋区の小中学校などに、大学院生も学部生と同様にアシスタント・ティーチャーとなって、教育活動に貢献している。特に院生として高い専門的知識をいかし、教育支援活動を行うことによって、教育現場からも評価されている。